

4. 大腸

肺に連繫。大腸も腹中にあり、上は闌門で小腸に接し、下部は肛門に連なります。別名を回腸とも言い、その中の直腸部分を“広腸”と称しています。

大腸の機能は、小腸から送られてきた食物の残渣の中から一部の水分を吸収、あとは糞便を形成し、暫く貯蔵してから体外に排泄させます。これを“伝導と変化”として概括されています。伝導作用は、小腸から送られてきた食物の残渣が闌門から下りてきて肛門に至るまで、ずっと働いていますが、変化は水分を吸収する意味を含んでいます。その水分を更に弁別し、清水はリサイクルされ、濁水は膀胱へ送られます。



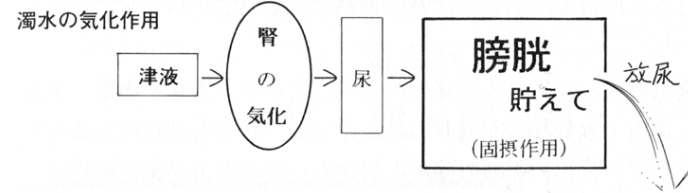
【大腸に異常があると】腹瀉、便秘となります。

5. 膀胱

腎に連繫。膀胱は下腹部に位置する貯尿の器官です。その大きさや形態は、尿の貯留の程度により変化します。そして排尿の機能も具えています。“膀胱は州都の官、津液ここに蔵され、気化すればよく出づ”《素問・靈蘭秘典論》

尿は津液からなるもので、津液が腎の気化作用によって尿に生成され、膀胱に送られ、膀胱の固摂作用を通じて、尿液は暫くここに貯えられます。“蔵津液”の意味です。

腎が生成した尿液は、絶えず膀胱に送られ貯えられますが、尿量が一定量となった時、尿意が催され、排尿となります。この膀胱の排尿機能は、その気化作用の結果であるため、“気化すれば即ち能く出づ”と言います。



【病理の状況下】膀胱は気虚不固（気虚のため固摂機能が不十分となる）となり、遺尿（寝小便、あるいは尿もれ）、小便失禁などの症状が見られます。更に気化が不十分だと、小便不利（小便が出にくい）、尿閉などになります。

6. 三焦

心包絡と連繫：元気・水液運行の通路 三焦は単一の形態を示す器官というわけではなく、一つの「機能単位」と説明しています。

中医学では三焦を、上焦、中焦、下焦の総称とし、六腑の一つと認識しています。勿論、西洋医学にはこのような解釈は存在しません。三焦における臓腑の位置を下図のごとく「上・中・下」に区分している

